

日時：2018年3月31日（土）14:30－18:35

場所：筑波大学附属高等学校（3階）会議室（東京都文京区大塚1-9-1）

出席：村田隆紀，新田英雄，喜多誠，井上賢，村石幸正，栗田和好，小河原康夫，中野公世，
金長正彦，小澤啓，大野栄三，岩崎信，柿沼藤雄，越桐國雄（中田博保代理），副島雄児，
波田野彰（監事），鈴木亨（庶務掛）

オブザーバー：伊東敏雄（選考委員会長）

欠席：川角博，栗原爾（監事），佐藤実，蔦岡孝則，三沢和彦，安田淳一郎

議事録作成：九州支部

村田会長から定刻に開会の宣言があり，議事（1）第3回理事会議事録確認の依頼と，意見があれば
本会最後に審議したい旨が告げられた。

【報告・確認】

（8）法人化対応を視野に入れた委員会等の規約

日本物理教育学会入試検討委員会規程（案）について説明があり，他の委員会についても規程を整備
するよう要請があった。「委員会」と呼ぶものに何があって誰が担当者であるかがはっきりしていないの
で明示するよう意見が出されたが，会誌（各巻3号）には明記されているので参照してほしい旨発言が
あった。

（9）国際的研究・交流

- ・村田会長から国際会議 International Conference 2018 "Modern Trends in Natural Sciences and
Advanced Technologies in Science Education"より会長宛てに出席・講演依頼があったことが報告さ
れ，会長に代わって新田副会長が対応（参加・講演）することが報告された。
- ・GIREP について新田副会長から説明があった。これについては次回の理事会で情報提供を行う旨報
告された。

（10）国際オリンピック組織委員（日本開催2022年）について

村田会長より，「一般社団法人国際物理オリンピック2022協会」から本会へ団体会員としての入会の
検討依頼があったことが資料に基づいて説明された。次のような点について意見交換し，再び具体的な
回答依頼があった場合には，「5年間，年5万円の会費」であれば入会できる旨を回答することとした。

- ・協会としてはおそらく諸学会等の入会によって基本資金を確保し，それを基に2020年度以降のJST
からの資金援助を得たい思いであること。
- ・協会が設定している5年間，年25万円の会費支出は本会としては無理であること，おそらく，物理
学会等であれば可能であろうが学会の規模が異なることを考慮すること。
- ・会費の支出に際しては特別会計からの支出が想定されること。
- ・本会が協会に入会せず，協会をサポートしないことは実質的にあり得ないことなので，入会の条件に
ついて検討を行い，再通知があった場合は協会に打診すべきこと。

（11）学会賞選考結果

伊東敏雄選考委員長から資料に基づいて，選考結果，応募状況，選考経過について説明があり，選考

結果について決議した。越桐理事代理から結果的に落選した候補者に落選の理由は伝えられるのかどうか質問があり、伊東委員長から理由の公式な通知はしないが非公式には伝わっていると考えられ、落選理由を公式な形で通知することはないとの回答があった。ただし、本人からの問い合わせがあれば回答を拒むものではないことも確認された。

尚、資料には選考経過の詳細について記載があるが、この部分は公式な理事会資料としては馴染まないもので、今後は理事会の参考資料に留め、会議後回収する形で準備することとした。

伊東委員長より奨励賞の対象期間を2年間から3年間に変更する提案があり、変更を議決した。

(1 2) 各委員会、WG 年度報告

- ・編集委員会 資料に基づき栗田理事小河原理事よりから編集委員会の活動状況、活動計画について報告があった。
- ・学会賞選考委員会 資料に基づき伊東委員長から選考委員会活動状況の報告があった。
- ・ニューズレター編集委員会 安田委員長は欠席のため資料の通りの報告であるとの伝言を受けた。
- ・入試検討委員会 井上委員から資料に基づいて報告があった。
- ・教育課程検討委員会 6月の第1回理事会で報告する予定であることが発言された。
- ・小中 WG 現時点のところ活動が休止されている旨報告があった。
- ・教育関連学会連絡協議会 新田副会長より現状の報告があった。本会に直接関係のある活動は無く、協議会に加盟している意義が見出せない状況であること、会計報告があるものの会費がどのように活用されているかも判然としないことなどから、脱会することが提案され脱会を議決した。

(1 3) 支部活動報告

資料に基づき、北海道支部（口頭報告）、東北支部、新潟支部、近畿支部、中国四国支部、九州支部より活動報告があった。

(1 4) 共催・後援申請 資料に基づき後援・共催について報告があった。

(1 5) 入退会 理事会での回覧資料に基づき入退会申請について議決した。入会 11 名、減免申請 4 名、退会 13 名。

栗田理事より、入会后直ちに論文を投稿したいとの申請があること、このために理事会での入会審査に代えてメール会議として対応可能かどうか発案があり議論された。過去には入会申請と同時に論文投稿を受け付け受理されたこともあったが、最終的に学会費が未納となったことがあること、このために会費の入金を確認してから投稿の受付をするようになったことなどの過去の事例が紹介された。また、メール会議の際のデータ・個人情報の取り扱いの難しさなどさまざまな議論を行った。メール会議の可能性について検討するため、データの PDF 化等の作業について、事務的な取り扱いや事務仕事量の増加等について慎重に検討することになった。

【議事】

(2) 総会議案書

村石理事から資料に基づき、事業報告（監査）、事業計画、決算（監査）、予算の議案書について説明があった。

- ・総会は2018年6月16日（土）15:00-16:00、筑波大学附属高等学校（3階）会議室を予定していたが、この会場を利用できないことが判明した。代替会場探しについては庶務掛に依頼することとした。
- ・資料に基づき2018・2019年度の理事・監事の交代について議論した。2017年度末任期満了の井上、

川角、金長、佐藤の各理事については交代理事を推薦してほしい旨依頼があった。また、支部推薦の任期満了の理事については該当する支部から報告してほしい旨依頼があった。

(3) 次年度評議員候補／支部へは確認

資料に基づいて評議員の交代について議論された。支部選出の評議員については、各支部から遅くとも4月中に連絡するよう依頼があった。関東、東海北陸については早急に検討し推薦を行うこととした。

(4) 資料に基づいて中野会計理事から決算説明が、波田野監事から監査説明があった。引き続いて中野会計理事から予算書の説明があり、データベース構築については特別会計から50万円を拠出予定で予算書の収入として記載しておくことが説明された。この中で、次のような修正案を議決した。

- ・新田副会長から、印刷費は昨年度決算の8掛けとして計上されているがそれで大丈夫かという懸念が提案された。昨年度は決算が予算に比べて小さく済んだだけなので、昨年度当初予算の8掛けと修正することになった。(印刷費は360万円として予備費をその分減額する)
- ・「国際物理オリンピック2022協会」への会費支出については、当理事会での見込みの決議として5年×5万円/年(総額25万円)を想定したが、あくまでも見込みであるため予算書には計上しないこととした。
- ・当会学会賞の授与については当理事会で確定したので特別会計に記載することにする。ただし、総会資料には特別会計についての記載は行わないこととする。
- ・波田野監事から現在会計に関する作業は中野会計理事が一人で行っている状況にあるため、早急に過剰負担になっている状況を改善すべきとの提案があり、改善することを確認した。

(5) 庶務

- ・村石庶務理事から、理事会、常務理事会、編集会議、編集幹事会の交通費支給について、これまではその都度現金支給を行っているが、事務的に煩雑であるため、原則としてネットバンキングを利用した年度末の一括振り込みに変更したい旨提案があった。今後実行へ向けて検討を進めることを議決した。ただし、特別の都合がある場合や、立て替え額が大きい場合などについては状況を判断して考慮することにする。
- ・中野会計理事から会費未納者への対応について提案があった。ハガキによる督促通知は効果が小さいので、振込用紙を送付する方向に変更することが提案された。今後この方向で準備をすすめることが決議された。
- ・村石庶務理事より2018年度第2回理事会の開催日の確認があった。8月18日(土)に常務打ち合わせ、9月1日(土)に理事会を開催することが確認された。

(6) 編集

小河原理事より資料に基づいて説明があった。この中で、今後は広告を積極的に取り扱って行くことを考えているが、広告の募集についてはどの委員会にお願いすればよいのか質問が出された。広告掲載の勧誘については伝手が無いと動きにくいので、広告を積極的に取り扱いたい旨を周知し、伝手を持っている会員に動いてもらう方が効率的であるということで合意した。また、年4回の会誌に継続的に広告を出す場合には年間8万円であることなど、広告掲載料や広告の仕様についても周知すること、広告の内容等については確認の必要があるので、編集委員会の目を通すことが望ましいことなどを確認した。

(7) 研究大会(中国・四国支部)

2018年度研究大会の実施内容について資料を基に検討した。次の事項について高橋実行委員長に問い合

わせることにした。

- ・参加・発表申込書式での著作権譲渡の取り方について確認すること。
- ・プログラムに記載のある「特別講演・原著講演 2」「原著講演 4・シンポジウム（全体企画）」はパラレルで行われるという意味かどうか。（パラレル開催は適切ではない）
- ・学会賞授賞式のセッションを設けること。
- ・香川大学共催となる場合会場費はどのような扱いになるか。
- ・講師の交通費，謝金は確保されているか

尚，村田会長より評議員会のテーマについて考えておくことが依頼された。ホテル予約が難しくなっており早めに予約を行うようアドバイスがあった。

大野理事から 2019 年度の研究大会（北海道支部）について，開催は 2019 年 8 月 8 日（木）・9 日（金），北星学園大学で確定したい旨予告があり了承した。

以上